

2050年の大阪の将来像に関するご意見

嘉名光市 様

○ 大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の考え方から、2050年の大阪の将来像の検討に向け、3つのキーワード【健康、持続可能、国際都市】を設定しました（別添有識者WG資料3，4ページ目を参照してください）。それぞれの観点を参考に、委員の皆様が現時点で考える2050年の大阪のあるべき将来像があれば、自由に記載してください。

なお、キーワード以外の事項についても、幅広く記載いただいても結構です。

・将来像は、技術革新など現時点では予見不可能な環境激変が想定され、「府民が共有できるありたい姿」とし、魅力的なビッグピクチャー、キースケープであり、バックキャスティング、フォアキャスティングであることが大切。イノベーションが生まれる条件、環境整備に注力。単一ではなく、多様であることが変化への適応として重要（セカンドシティとしてのバイタリティ）。

・大阪・関西圏は全国に先駆けて高齢化、人口減少を経験する都市圏であり、創生が求められる地方としての性格も有しており、先導的モデル性を有している。

・「健康×まちづくり」では、ウォーカブル・シティがキーワード。2050年を迎えても変わらないテーマ。歩いて暮らせる、歩くことで健康を維持できる都市圏、生活圏の実現。そのための都市空間のデザインや、モニタリング技術などを実装する。モビリティも視野。

・「持続可能×まちづくり」では、コンパクト・シティの実現とともに、地域を支える産業の維持と更新・土地利用転換、空地を前提とした質の高い空間マネジメント、安全・安心の確保、課題に対処できる魅力的で強いコミュニティづくりなどが重要。

・「国際都市×まちづくり」では、来訪者、滞在者を含め、多様な主体が共生できる都市を目指した土地・空間管理のあり方や、就労・教育・居住環境、観光など多面的な対処。

将来像の実現に向けて、克服すべき課題や取組みの方向性がありましたら、記載してください。

・取り組みを先導・支援するアクセラレーター、シンクタンク（競合都市調査等）が必要不可欠。各地で設立されているアーバンデザインセンター（UDC）はモデル。タテ割行政、大学、企業やNPO、市民をつなぐ新たなセクターの介在。境界を超える枠組みの構築。

・デザイン思考、イノベーションを生む共創環境の創出。D.schoolのようなコアの創出。

・各地で進む都市づくり、まちづくりについては、いのち輝く未来社会を先んじて可視化するモデルとすべき。万博会場（夢洲）などの臨海部、うめきた、御堂筋、中之島、難波、森ノ宮、水都など大阪都心でのまちづくりでの実装、府下各地のまちづくりもモデル化、万博サテライトとして位置付けて、未来を可視化。

-----ご記載いただく上での留意点-----

- 参考資料として添付している「大阪のめざすべき将来像を考えるうえでの視点」や「大阪の現状」、「人口推計」等をご参照のうえ、**自由にご意見を記載してください。**
- **WG 当日に、各委員の説明時間（5～10分）を設けますので、資料の補足事項は、その際にご説明いただけます。**
- 今後の取組みの方向性は、行政に限らず、民間などの取組みも含めて幅広く記載いただいても結構です。なお、本ビジョンが、2025年を目標年次としていることから、2025年に向けた取組みの方向性を記載してください。
- 行数が不足する場合は、適宜、新たな行を追加してください。
- **ご提出いただいた本様式は、資料として配布するとともに、WG 終了後、HP 上で公表いたします。**
- 本様式以外に、第1回WGで提出を予定されている資料があれば、併せてお送りください。